令和6年度



▶ 全国オンリーワンの評価を活かし、世界的な課題解決に向けた取り組みを

▶ 脱炭素とSDGsを発展させるため、次世代のデジタル技術を活用 価を得ております。 令和2年、世界を震撼させた新型コロナウイル

ス感染症が国内で発症が確認されてから令和 5 年までの3年間は、政治・経済・社会や日常生活な ど全ての分野において活動の自粛や制約が余儀 なくされました。行動制限が緩和された今、人の動 きは活発化しているものの、経済においては急激 な物価高騰や社会的に加速する少子化と人口減 少問題など、新たに緊急を要する課題が浮き彫り になってきております。一方、長年続いてきたデフ レからの脱却の流れやデジタル化によるリモー トワークの普及などにより、生活や働き方のスタ イルも変容しつつあり、社会の大きな変革期を予

感させます。 その中において本町では、令和2年に第4回 ジャパンSDGsアワード内閣官房長官賞を受 賞、令和3年にはSDGs未来都市と自治体SD Gsモデル事業に選定され、令和4年には脱炭素 先行地域に選定されるなど、恵まれた自然環境や 循環型農業を象徴する脱炭素の取り組みが高い評

特に、SDGS内閣官房長官賞と脱炭素先行 地域がダブルで選定されているのは全国1,718 の市町村においても上士幌町が唯一でありま す。このように世界的な課題解決に向けた取り

組みに高い評価を得ている本町は、この先、全国 オンリーワンの評価をさらに磨いていくこと が、町民の幸福度を高め持続可能なまちづくり に帰結するものと認識しております。そのため SDGsと脱炭素、そしてそれらを発展させる ためにデジタル等の次世代技術の活用が必要と 考えております。

第6期上士幌町総合計画「未来につなぐ 笑顔 あふれる 元気まち上士幌」の実現に向けて、改め て農林業、商工観光、医療福祉、教育、そして子ども から高齢者まで、全ての分野、全ての世代の参加と 理解が肝要と認識しておりますので、町民はもと より議員の皆さまにも格別のご支援を賜りますよ うお願い申し上げます。

し町組解まボ6林② 置ぐ素 激工響ネる

昨年の本町の農業は、春先から天候に恵まれ、農作業も順調に進み、小麦収穫恵まれ、農作業も順調に進み、小麦収穫恵まれ、農作業も順調に進み、小麦収穫を降雨による高温多湿な気象状況は、各作物の品質・収量の低迷、国際紛争や急激な円安などから、飼料・肥料をはじめとした農業経営は厳しい1年となりました。別を育った。一段などから、飼料・肥料をはじめとした農業経営は厳しい1年となりました。別による自給飼料の増産、緑肥作付けによる炭素固定、バイオマスを柱としためには、SDGsの視点を取り入れた、脱輸入・脱炭素化・環境負荷軽減に向けた農業・農村地域の構築が重要となります。メタン発酵消化液の更なる利用と耕畜連携による自給飼料の増産、緑肥作付けによる炭素固定、バイオマスを柱とした地域資源の循環など、本町における持続可能な循環型農業を推進してまいります。となら、道営事業の新規地区立上げに向け、1地区の調査計画を進めつつ、圃場は、1地区の調査計画を進めつつ、圃場は、1地区の調査計画を進めつつ、圃場は、1地区の声を関いてまいります。となら、道営事業の新規地区立上げたあることから、道営事業の新規地区立上がに向け、1地区の調査計画を進めつつ、圃場は、1世の大学では、1世の大学が、1世の大学では、1世の大学では、1世の大学では、1世の大学では、1世の大学では、1世の大学では、1世の大学では、1世の大学では、1世の大学に、1世の大学では、1世の大学では、1世の大学では、1世の大学では、1世の大学では、1世の大学では、1世の大学では、1世の大学では、1世の大学では、1世の大学では、1世の大学では、1世の大学が、1世の大学では、1世の大学が 牧場につてを図って

活躍できるまちづく

保健·医痰

く、いつでも緊急対応ができるよります。また、今後も新たな変異株のも、発症や重症化予防を図ってお えを確かなっ 施 5月に5 ど必要なる こ必要な方々へのワクチン接種を実にでおりますが、引き続き、高齢者に、 5 類感染症に移行し対策の緩和型コロナウイルス感染症は、昨年 防を図っ にな変異株に よう にま 備なよい実者和年

) がいたコンセプトとして普及啓発事で健康寿命延伸の取り組みでは、 な確かなものとしてまいります。 $\overrightarrow{}$ 援夜医次安行健ンを赤予

を 実施 急診療 7 6いります。 体制の維持に対する

地域 包括

国の低所得世帯でまいります。 よる 支え合い 民 進がた。 ため、 ため、

また、医療や介護が必要になっても、 住み慣れた地域で暮らすことができるよう、地域包括支援センターが中心となり医療機関と介護事業所とが連携強化し、地域の実情に応じた多様なサービスの充実や支え合いの体制づくりを進めてまいります。

「認知症サポーター養成講座」等で、正しい知識の普及に努めてまいります。
「認知症サポーター養成講座」等で、正しい知識の普及に努めてまいります。を「認知症サポーター養成講座」等で、正しい知識の普及に努めてまいります。を「認知症の人」のみならず介護者を支え、共生することができる財子ームの取り組みを支援し、地域全体で「認知症の人」のみならず介護者を支え、共生することができる町づくりを進めてまいります。
で、正しい知識の普及に努めてまいります。すらに、一CTの活用による高齢者向けのタブレットを利用した遠隔健康相談や緊急通報システム、一斉情報配信システムなど独り暮らしの不安軽減に努めてまいります。
「護サービスの維持・充実への影響が出ています。介護人材の確保と定着に向けて、介護職員初任者研修の実施など必要な支援を実施してまいります。

出産 支援

まちづくり優に

子ども家庭庁が昨年4月に設置され、「こども家庭庁が昨年4月に設置され、「こどもまんなか社会」を理念としております。本町においては、第2期上士幌町子ども・子育ての悩みや不安、虐待などの相談窓口である「上士幌町子ども・子育ての悩みや不安、虐待などの相談窓口である「上士幌町こどもと子育ての相談を口である「上士幌町こどもと子育ての相談を口である「上士幌町こどもと子育ての相談を口である「上士幌町こどもと子育ての相談を口である「上士幌町こどもと子育ての相談をつまいります。「う、不妊治療費の助成においては、保育が安心して出産・子育てができるよう、不妊治療費の助成においては、保険適応となる治療の自己負担分に加え、先進医療分の医療費及び交通費を助成するとともに、低所得の妊婦の方に対する初回受診料の助成を行ってまいります。

また、里帰り等の理由で、本町の助産 また、里帰り等の理由で、本町の助産 に対するサポート体制の充実を図り子 でいる生教育授業を高校生まで拡大するなど、経済的支援のみでなく、子育て でいる生教育授業を高校生まで拡大するなど、経済的支援のみでなく、子育て るなど、経済的支援のみでなく、子育で まいります。

い環境では、定期的なの保護者間の交流やとの保護者間の交流やシースを進めている。 おり -居は、 心 笑地 今 と年 の度のあ

防災·

防災対策につきましては、役場庁舎の 耐震化をはじめ、災害時における避難施 及び国土強靭化計画に基づく災害に強 い基盤の整備を図ってまいります。 平成28年8月に、十勝地方を襲った豪 雨で国道が一時寸断される災害が発生 して以来、国に対して、音更川流域の洪 水対策を要望してまいります。 年度国土交通省予算として、音更川流域の洪 水対策を要望してまいります。 また、土砂災害・水害ハザードマップ を続き要望してまいります。 また、土砂災害・水害ハザードマップ を続き要望してまいります。 また、土砂災害・水害ハザードマップ を続き要望してまいります。 をど災害情報の迅速化と多様な媒体を整備してまいります。 さらに、自ら避難することが困難な でを通して、地域自主防災の組織化を進め、「自助」・「共助」・「公助」の役割分担と とともに、継続的に開催する防災訓練なとともに、継続的に開催する防災訓練なとともに、「かみしほろ情報アプリ」など炎害情報の迅速化と多様な媒体を を備してまいります。 さらに、自ら避難することが困難な とともに、継続的に開催する防災訓練なとともに、継続的に開催する防災訓練なとともに、が数音時にだれ 人取り残されずに避難できるよう台帳 登録や個別の避難計画の作成を進める とともに、継続的に開催する防災訓練などを通して、地域自主防災の組織化を進め、「自助」・「共助」・「公助」の役割分担とめ、「自助」・「共助」・「公助」の役割分担と

地域 生社会の実現を日

世代や

消防· 救急

活動しやすい環境づくりを実現 さとともに、今後も諸課題の解決を図を図ってまいります。 非常備消防である消防団は、地域を図ってまいります。 非常備消防につきましては、引き続いる 端備消防につきましては、引き続いる がら、さらなる住民サービスの向を図ってまいります。 対率的な組合運営を進めいにつきましては、引き続

層組 災害 上に努めてまいりと言対応力及び扱いのである。 別につきましては、引き続き 別につきましては、引き続き 別につきましては、引き続き の関係を担う存在で、 が体制の中核を担う存在で、 が体制の中核を担う存在で、 が体制の中核を担う存在で、 が体制の中核を担う存在で、 が体制の中核を担う存在で、 が体制の中核を担う存在で、 がはいます。

交通安全· 防犯·消費生活保

近事故院上 ります。ま 高める 口連続 各種啓発活動に 見生活保護につきましては、既以防止に努めてまいります。 · • 4 取 近に努めて 亡、高齢ドライバーによるた、運転免許自主返納りのの日達成を目指して り組み びを進め、交通事故死がだよる交通安全意識を 5 $\frac{1}{2}$ °相あか 交窓いゼを 護

な たの充実強化ないよう情報発 妙心 $\frac{1}{2}$ 実強化に努めてよう情報発信を行う る特殊詐欺等の被害に ま ともに、 悪質 ませ

住宅 水道·道路· 土地利品

を意識 境の確保に努める 長寿 **退営住宅** 営住宅に 命 (に努めるとともこと)化計画に基づき、快流のるとともでき、快流のでは、 慗 蓓 カーボンのモご畑・改修を進めて たな配置」の候域 、快適な住宅 脱炭素 デ となり化環宅用

は、早期着手に向け、北海道との協議を進めてまいります。
一般住宅につきましては、雇用や定住の促進を図るため、民間賃貸住宅の建設や持家住宅の新築、リフォーム、子育て世代の住宅取得に対する支援を行ってまいります。を進めるとともに、脱炭素化に資するため、断熱性能や省エネ性能、再エネシステムの導入等の基準を満たす「上土幌型脱炭素住宅」に対する支援を行ってまいります。を進めるとともに、施設・設備を踏まえ、今後の住生活に関する目標や施策を定めるため、「上土幌型脱炭素住宅」に対する支援を行ってまいります。
水道につきましては、居辺地区の施設更新事業をはじめ、老朽施設の更新を進めるとともに、施設・設備の適切な管理により、安全・安心な給水体制の確立を図ってまいります。
下水道につきましては、居辺地区の施震診断結果等を踏まえ、次期「ストックマネジメント計画」を策定し、躯体・設備機器の計画的な更新・改修と適切な管理を進め、公共用水域の保全に努めてまいります。
また、公営企業会計を適用しております簡易水道・下水道の両会計につきましては、更なる経営の効率化と健全化に取り組んでまいります。
また、公営企業会計を適用しております簡易水道・下水道の両会計につきましては、長寿命化道路・橋梁につきましては、長寿命化計画等に基づき修繕を実施するとと

に終に

む生活

窓口の更なる充実を図ってまいります。 窓口の更なる充実を図ってまいります。 「自治体DX(デジタルトランスフォーメーション)」の推進においては、「CTやAー(人工知能)等のデジタル技術を積極的に活用し、町民生活の利便性向上や、役場業務の改善・効率化を図ってまいります。 昨年度に構築した「行政と町民をつなぐインターネット環境」を活用し、町民生活の利便性向上や、役場業務の改善・効率化を図ってまいります。また、昨年度実装したマイナンバーカードや顔認証での入退室を可能にする仕組みを検討し、一方では取得したデータをもとに、より良い町民サービスの提供を図ってまいります。 ドローンを交えた新スマート物流のボーンテストは引き続き支援してまいります。 遠隔監視や飛行ルートの増加により、物流コストの低減を図ってまいります。 でコンテストは引き続き支援してまいります。 でコンテストは引き続きす選しており、次期地が、コンテストは引き続きす選しており、一部区間においては、物流のコンテストは引き続きす選したが、対してまいります。 「ローンを交えた新スマート物流のが、コストの低減を図ってまいります。 でアローンを交えた新スマート物流のが、カー部区間においては、か流コストの低減を図ってまいります。 でアローンを交えた新スマート物流のが、対したデータをもとに、より良い町民サービスの提供を図ってまいります。 でアローンを交えた新スマート物流のが、カードや顔で操作するレベル4にあり、一部区間においては、のコンテストは引き続き支援してまいります。 でアローンを活用した夜間遭難救助のコンテストは引き続き支援してまいります。 でアローンを対しており、次期地が交通の手段として安心安全の技術を対しており、の世間においては、のコンテンとは、カードを前においては、カードを表していります。

もに、ユニバーサルデザインの視点 もに、ユニバーサルデザインの視点 もに、ユニバーサルデザインの視点 もに、ユニバーサルデザインの視点 を確保するため、老朽化が進む がでまいります。 生地利用につきましては、人口減少、 本ででは、本ででは、人口減少、 上地利用につきましては、人口減少、 を確保するため、老朽化が進む をな生 が進むるため、本 をな生 が進むるとと だした公共施設等のでまったがませんだのは、人口減

町民の足となる地域交通は「地域公共交通計画」に基づき、デマンド運行に はつミュニティバスの運行に合 地循環線コミュニティバスの運行に合 地循環線コミュニティバスの運行に合 地で、昨年より定期運行を開始した自 動運転バスなどにより、町内の地域公 共交通の推進を図っております。 また、自動運転バスが運行しない月・ はコミュニティバスが運行しない月・ なさ、自動運転バスが運行しない月・ を合性を図っていき、利用者の定着、利 便性の向上を図ってまいります。

ョン

社会の · 経 溶 術 指してまる を活用 会 デ 暮ら

■ 広報かみしほろ2024.4月号

取町Gにバを一、民ををし

業光てを削年温町

る空間維持に努めてまいります。討を進めるとともに、快適に利用できに基づき、再整備等の実施に向けた検

とは、極めて大切なことであれた、生きがいを持ち幸福を追っれ会参加活動を通じて心で社会参加活動を通じて心で、

交流·移住· 定住

るよう努めてまいります。とは、極めて大切なことであります。ことは、極めて大切なことであります。ことは、極めて大切なことであります。ことは、極めて大切なことであります。こ

アフターコロナの社会的な流れの一つとして、地方移住への関心が高まりるとれる企業との交流で、寄付や交流をまた、首都圏におけるPRイベントへの参加等により、ふるさと納税トへの参加等により、ふるさと納税トへの参加等により、ふるさと納税トへの参加等により、ふるさと納税あれる企業との交流で、寄付や交流を連びた関係人口の拡大に取ります。

とであります。こでで、学習活動とで、学習が

コミュニティへの意識が時代と共に変化する中、高齢者の見守り、地域防災・防犯など、地域における助け合い、支えあうコミュニティを支援してまいやアダプトプログラムの活用促進を図やアダプトプログラムの活動大援事業やアダプトプログラムの意識が時代と共にを進めてまいります。

し、大きな節目を迎えました。また、過去に例の ない記録的な暑さにより教育活動の制限を余儀 なくされるなど健康や安全の充実が求められた

、支援の充実

▶町民一人ひとりが様々な活動を通して、対話と交流の好循環を生む環境づくりを

ではいたします。その過程において「(仮称)上士幌町こども計で、本町のこどもす。その過程において本町のこども計で

。その過程において

① 上士幌町こども計画」を策定2とも・子育て支援事業計画」の検ども・子育て支援事業計画」の検

年となりました。

教育委員会といたしましては、すべての教育

活動における持続可能性を追求し、変化する社

会の情勢や時代の要請を念頭に「対話と交流の

好循環」を生む環境づくりを進めてまいります。

本法と、昨年12月に閣議決定され年度は、一昨年に制定されたこど

大綱を勘案

、「第2

▶ こどもまんなか、こども大綱を念頭に、上士幌の子ども施策の新たな柱を策定

令和6年度

昨年は、私たちの生活様式を大きく変えた新

型コロナウイルス感染症が5月に5類に移行

上士幌町教育委員会教育長

設により、利用者が選択でき、笑顔が広 その対応を進めることが緊喫の課題と と子育ての相談センターそら」の機能 の充実を図ってまいります。また、子育 の充実を図ってまいります。また、子育 の充実を図ってまいります。また、子育 の充実を図っておいります。また、子育 の充実を図っておいります。また、子育 の充実を図っておいります。また、子育 の充実を図ってまいります。また、子育 た社会全体で支援することが求め日、子どもの学びや育ちを家庭を

まいります。
でおりますが、今年度は、居場所の機会でおりますが、今年度は、居場所の機会がる居心地の良い居場所の機会がる居心地の良い居場所の提供に努め

、「こどもまんなか」を理るととも家庭庁が昨年4日

月に設置さ

か」を理念-

て子育てができるよう、引き続き、認定における保育料等の無料化のまか、小中学生の修学旅行経費や学習がでまいります。また、要保護児童生徒が、小中学生の修学旅行経費や学習が学援助世帯への増額支援を行い負担の軽減を図ってまいります。

の保護者への支援として、特別支援教 一、軽減を図ってまいります。 の保護者への支援として、特別支援教 における参加料等の減免措置を行い 体験の格差が生じないよう進めてま における参加料等の減免措置を行い 体験の格差が生じないよう進めてま がります。

ークで、下かります。昨年いの場として、運営の魅力化や施設場所となるよう努めてまいります。 学童保育所は、家庭に代わる毎日の学童保育所は、家庭に代わる毎日の学童の場として、運営の魅力化や施設に活の場合であります。

「生涯活躍のまち」の取り組みにつきましては、健康寿命の延伸や生きがい・ましては、健康寿命の延伸や生きがい・ましては、健康寿命の延伸や生きがい・ましては、健康寿命の延伸や生きがい・れております。

「生涯活躍のまち」の取り組みを進めております。
「生涯活躍のまち」の取り組みにつきなります。

まいります。選する生涯活

も実証を行い、今和フきな支障がなかった。 向 け準備を進めて 年度の定着ル に度

支援に努めてまいります。 にとってメリットが得られ した機会となりました。本 人ひとりがテーマを持って たちとして畑作 可能 首都圏とし 年 との交流のほか、たというとの交流のたった。 た し ま ・ と ま した「ト 1や酪農を学ぶなど、SV 交流のほか、SDG 旅9名が延べ 上士幌を結ぶ2拠進めてまいります した。こ っました。本年度もーマを持って地域に -が得られる こ の 間、 W a y 留

幼児教育の充実

ども園と小学や問形成の基礎と 進 の質 的向上 点目は、こてまいり 上を図り 学校の接続を意図-ります。 こなります 特に次のつ の め、 推育こ人

了 〇教育支援「)5歳児. こ し小架け 小学校1 小学校学習発表会等 一点目は、 連携検討 い 橋 プ ·年生給食サ 小学校1 地域協 ノラン」で· ・ と と し と に と 年 の鑑賞 実施 生 との交流 校を繋ぐ

○36の基本動作を取り入れた「あそび」 ○人・もの「こうりゅう」 ○地域の持つ「きかく」 の地域の持つ「きかく」 別と地域住民の距離を縮める多世代型 協働の考えのもと、生きがいをもって なるよう進めてまいります。

ーそらの充実

ども発達支援センタ

を通して、障がいの有無に関わらず誰を通して、障がいの有無に関わらず誰もが個々の能力を発揮でき、共生社会の一員として認め合えるよう体制の充実を図ってまいります。
こどもと子育ての相談センターそらは、利用者支援事業と児童虐待防止事業を行っていますが、ここ数年、不登校に関する保護者の相談が増加傾向にあります。このため、学びにアクセスできない子どもをゼロにする目標を掲げ、不登校児童生徒全ての学びの場を確保し、学びたいときに学べる居場所の一つとして、仮称「上士幌町教育支援センター設置準備室」を生涯学習センタークとして、仮称「上士幌町教育支援センター設置準備室」を生涯学習センタークに開設し、受け入れを開始します。設置に際しては、登校という結果のみを置に際しては、登校という結果のみを

う体験・ 増や 流を図ってまいります。心に向かって道が拓ける 登校の誤解と不 応じ 護者の学習機会や懇談機会を設け、まいります。また、学校とも連携した し、それぞれの児童生徒の状況に験とコミュニティ活動の選択肢をとせず社会的な自立が図られるよ た支援が可能 -安を解消-となると よう検討. した保 5

教育環境の整備

か しほろ学

携協働部、 業を展開-育ち る教育づれ を行いながら進めてまいります。 に、実施内容や時期など必要な見直しめたっては、年間スケジュールをもと した「かみ・ に関わる仕組みづく こも園から高校まで 研究推進部の3部4グルみしほろ学園」は、総務部、 $\frac{1}{2}$ くまいります 見直)地域ぐ ・ます。事業実施に しも含め約30のま るみで 事業実施 を基本理念 一貫性の 之 連 事

用能力を育むるのよう)ための環境整備 CTによる情報活

5. 0時代の到来が5. 0時代の到来が

ばれる 仕事で

「てーCTの活用が日常のものとなっています。学校教育においては、GーGAスクール構想の方針が打ち出され、各学校に高速大容量のネットワークが整備され5年目を迎え、1人1台の端末は、いつでも・どこでも使えるマストアイテムとなっています。しかしながら、一方で、児童生徒が主体的に活用していくことや相互のやりとりについては十分ではない状況が見られます。また、端末の使用を進める中で、故障頻度の増加やバッテリーの経年が光ですべての子どもたちのウェルビーイングの実現を目指してまいります。さらに、デジタル活用のソフト面、端末環境のハード面ともにネクストステージに向けて、すべての子どもたちのウェルビーイングの実現を目指してまいります。なお、今年度は、小学校にデッシー向ヒー」をで

職員の事務室に冷房設備を整備すると思い。このため、健康対策として、こどを見た。このため、健康対策として、こども園の3歳から5歳児用保育室及び教も園の3歳から5歳児用保育実技の制活動の自粛、小中学校では体育実技の制・年は猛暑により、こども園では園外 受い体育実技の関係対策として、この対策として、この対策に追われ と教 制外

中学校部活動の地域移行

前に水飲みにともに、熱は

場を設置

しまさ

熱中

症

対策と.

 $\frac{1}{2}$

学

日、冬は概ね20日といた上間「50日以内」は変更せず

します

丰

取り体臨たねはり扱育時に30年

夏は概

学校の長期休業期間につ

7

部活動の地域移行は、令和5年度からの3年間を「改革推進期間」と改め、関係者が協働しながら、地域の実情に応じて可能な限り早期の実現を目指すこととして捉えるのではなく、地域と学校がこれまで以上に連帯して地域の実態に応じた生涯スポーツの環域の実態に応じた生涯スポーツの環域の実態に応じた生涯スポーツの環域の実態に応じた生涯スポーツの環域の実態に応じた生涯スポーツの環域の実態に応じたを対方のではなく、地域の実態に応じた生涯スポーツの環域の実態に応じた生涯スポーツの環域の実態に応じた生涯スポーツの環域の実態に応じた生涯スポーツの環域の実態に応じた生涯スポーツの環域の実態に応じた生涯スポーツの環域の実態に応じた生涯スポーツの環域の実態に応じた生涯スポーツの環域の実態に応じた生涯スポーツの環域の実態に応じた生涯スポーツの環域の実態に応じた生涯スポーツの環域の実態に応じた生涯スポーツ・文化芸術活動を継続して親しむ機会を確保することは、地域の魅力化へと発展します。このようなことから、「部活動の地域移行」自体を目的化せず広い視点をもって町民との対話と交流の好循環が生まれるよう、横断的な人材による学習・検討委員会を開催してまいります。

いに関するガイドライの授業や部活動の中・

業の検討や

「動の中止・変更の取り切りを暑さ指数に基づいた付き

 $\dot{\exists}$

組みを徹底

まいります。トドラインに基づ

時間の見えるの設定、タイム

0)

材の活用を進め一

で 実効性のある とり とり 一定の成果をなる とり 一定の成果をなる とり は とり とり おりま とり からま おり おり は できる とり かい とり は できる とり は いっと とり は いっと とり は いっと とり は いっと とり とり は いっと とり は は いっと とり は ない とり は いっと とり は ない は いっと とり は ない は いっと は ない は いっと とり に いっと とり とり に いっと とり とり

る

組みを進め、

教員

ラ

6る、学校閉庁日や

定時退勤

ま化取げど務日プ本化策整

よる勤

町

ンに

3一層の推進が求められていませ提言)」では、孝順力

(提言)」で

発員が担う業務の適式

備につ

いて緊急的に取

り組むべき施

的に働き方

進んでき

 $\stackrel{\sim}{-}$

さていますが、定時に退勤でへの教職員の意識改革はかた

的

改革は進めて

かなけ

実態がある

9

Ļ

こから、

継

ば続でな

ませ

年

8月の「教師を取さ

く環境

教職員

貝の働き方改革

どもの読書環境の充実

を磨き、表現力を高めることができます。読書によって、様々な知識を得て、多様な文化や考え方への理解を深め、多様な文化や考え方への理解を深め、も、読書習慣を育むことができます。今年度も、読書習慣を育むことを目的として、まいて「にこよむチャレンジ」を行い、全小学校児童には「にこよむ明を深め、全小学校児童には「にこよむ帳」を配布を開き、表現力を高めることができま す。磨き、 ンで読書σ 記定こども園では では おける読み聞かせの推進と に触れ合う機会の提供に努めて ンの基礎となる言語を学びどもは読書を通じ、コミュー しが定着. を促進いた は、蔵書する絵-しきて しおり コミュニケ します 家庭内

義務教育の充実

答申から3年が経過しました。の実現を示した「令和の日本型教育」のき出す個別最適な学びと協働的な学びと出す個別最適な学びと協働的な学び きよる の全面実施から4年、中央教育審議会ら順次実施となった「新学習指導要領」平成29年に告示され、令和2年度か 個別最適な学びについ申から3年が経過しま 拿 ŧ たちの可能性を 中央教育審議会

いて

法や指導体制の充実・改善を図ると同時に、GーGA構想の実現によるーCTの活用、少人数学級や教員配置の複数化等により、個々の家庭の事情に左右されることのない上士幌ならではの「学び」を展開してまいります。 協働的な学びについては、個別最適な学びが子どもたちの孤立した学びにならではのないよう、各教科や特別活動等の探究的な学習や体験活動等を通じ、子ども同士で、あるいは多様な他者と協働しながら、持続可能な社会の創り手となることができるよう工夫改善で、めてまいります。

社会を生き抜 力の向し

令和5年度の「全国学力・学習状況調査」は、例年実施している国語、算数・数学に4年ぶりに中学校の英語を加えて実施されました。小学校では、2教科ともに平均正答率が全道・全国を下回りましたが、算数の「数と計算」「変化の関係」では、改善傾向もあり、明るい兆しが見られました。中学校では、2教科ともに平均正答率が全道・全国を下回りました。
関係」では、改善傾向もあり、明るい兆力、数学の「数と式」「関数」ともに、全道を上回りました。
確かな学力の向上のためには、基礎基本の定着、興味や関心に応じた学習、選題、一〇T機器の活用、家庭学習り記述。

三 広報かみしほろ2024.4月号

視点と. 明確な課題、 なる ら子 **動の時間の確保も必要な視点の一** など を育 できる ŧ とから、 した指導された たちが主体 る探究型の授業展開を 考える時間や話 教師が教える 計画が-計画が大切です。まで対話的な深い学が 自ら学 的に学 込む授業 ふ授業 し合いまた まびた 実えとかと活べを

豊かな 人間性をはず 教育の推進

均を下 活を営む態度を育む上 間以-レビやスマ 朝食を毎日食べ わ め ので 運動習慣等 こなって たっ 上見る す 回 基礎で 令 -」は全国全道と すっ 小中学生の「学習 健康で 和5年度全国体力 活力 調査結果が $\dot{}$ 1学生の「学習以外で三へる」生徒は全国国会道で 豊かな活力ある 子 ある生活を支え 等 デ こもたちが 極めて より上回るがの画面を5寸 から、 ノ· 運動 中 学 大 生 生 結時テ平の能な生涯る

、家族団ら このため、 45 4月の月初: ,時間の大切さを再 F ス 人も意識. メデ 7 に触 7 認識する し減らす れる時 びみ -つ施 11 と で と を

リーンデーを計画いたします。いるため、今年度はプラス1ノース々約9割が「意義があった」と回答して

健康でたり つくる食育の推進

食育基本法制定及び栄養教諭制度の創設から20年近くとなり、「食育」の概念は広がりを見せましたが、加えてSDGs社会の創り手を育てることも使命の一つととらえています。食品の安全性、食品口ス、環境問題など、学校において食に関する現代的な課題を踏まえた指導を行えるよう、生産者と連携の強化を図ってまいります。これまで、外国産小麦を原料としていたパンの提供は、地産地消と調理作業の省力化を図るため道内産小麦を中心とした原料へと移行いたします。また、より安全・安心に配慮したクリーンなお米に切り換えてまいります。現施設となってから25年目を迎える学校給食センターは、毎年、機械設備、調理機器等の計画的な更新を行っておりますが、今年度は、食器洗浄機トレーりますが、今年度は、食器洗浄機トレーりますが、今年度は、食器洗浄機トレーりますが、今年度は、食器洗浄機トレーりますが、今年度は、食器洗浄機トレー

理のもと、安心・安全な学校給食を提供部品等の交換を行い、徹底した衛生管供給装置更新及び残菜処理室脱水機の シ ま いります

取り組みを進めてまいります。

「共食」の喜びを実感することができるよう、給食指導の充実を図る必要があら、論量研修を継続して実施するほか、ら職員研修を継続して実施するほか、ら職員研修を継続して実施するとができるの。高等教育機関の協力を得ながら、意をとができるがあります。高等教育機関の協力を得ながあります。高等教育機関の協力を得ながあります。

環境教育·ESD· SDG sの推進

社会の構築に不可欠な課題で体的な対策を」の目標13は、持 地球温暖化が進行 ことがで 中 が策を」の目標13は、持続可能ならができません。「気候変動に具い環境教育はSDGSとは切りに環暖化が進行し気候危機が叫ば す

では、 では、 では、 では、 ではの資源を用いた実践や電 を関連付けた探究学習など、校種に が環境や地域全体でSDGsを推進す る町ならではの資源を用いた実践や環 場と関連付けた探究学習など、校種に にじた環境教育が高く評価された結 果と受け止めています。脱炭素先行地 場としてSDGsを推進す ながした。豊かな自 なではの資源を用いた実践や環 はとしてSDGsを推進す を推進する本町は、 なが種がある「かみしほろ学園」のグ

シップ教育)を一層進めて人材育成の教育(ESD)や探究心、コミュニケーシや探究心、コミュニケーシー・カープテーマを持続可能を 層進めて)D)ととらえ、()能な社会を創っ ョン力等の レプ

高等学校の振興

で行っています。

で行っています。

で行っています。 て、特色ある教育上士幌高校は、地 X育課程を編成-、地域振興の担い た学習を学校内でと地域社会の抱え 抱え

でおります。 でおります。 でおります。 でおり、地元高校の特 でおり、地元高校の特 でおり、地元高校の特 でする。 均20%程度であった 有に理解されてきているものと考え地元高校の特色や魅力が生徒や保は50%近くになる見込みとなってお した対策が実を結び、ここめで した対策が実を結び、ここめで した対策が実を結び、ここめで した数値で推多 は、昨年度は40%、 今 年

動のはは今年がある。 任等を通し -)に歯止めがかからず方、十勝管内の中学 ||を見据え、持続・継続に ||でのます。上士幌高校の 年 - 勝管内の中学校卒業者数は、 9 だ若年世代を中心と.だめには、地域留学や 約99名減少する見込 続・継続した2間
士幌高校の教育活 令 年 度入

境を整備. と地域を強固に 住環境、生活 ます。こ 地域・企業と の流れ 環境、生活支援環境、地域との、募集は、推薦枠の5%程度を見 この考えの 姿勢)連携 が必要で につなげる ŧ \rightarrow بح しある 道外募集を行 、今年度は、 9 と考えて を進め この接続 スや 高校 続ながある。様なが一様である。

生涯学習の振興

極めて エとルは (生を送り ルビ 重要な観点で 心も体も社会的 生涯を通-ググ が健康で 社会の 7 に満 実現 学 充実 てたるし

流や りや趣味、 生涯学習の拠点施設-や歴史まで 対話を通 症 涯活躍の $\overline{}$ 1 、講座や読書 も映 集う町民のゆるや \neq サ 出る ・図書館は、 責活動、 こなる 地の風 調 **涯学** 健康 努る人交のづ習

社会教育の充実

学校や家庭以外の広く社会で行われる社会教育は、学校・家庭・地域・行政が相互に連携・補完して課題解決に取り組み、地域全体の活性化に努めなければなりません。推進にあたっては、学校教育と接続した青少年に対する各種研修や交流事業への参加促進を行い、地域のリーダー養成を目指してまいります。
また、高齢者の学習活動やコミュニティ活動は心の豊かさや生きがいの充足となることから、シルバー学級の学習内容の工夫・改善や多世代交流の充実に努めてまいります。

スポー -ツ活動の推進

スポーツは体を動かすという人間の欲求に応え、爽快感・達成感精神的な充とをもたらし、健康で活力に満ちた長寿社会の実現に不可欠なものです。このため、スポーツによる対話と交流を進め、町民が生涯にわたりスポーツによる対話と交流がつき、まいります。また、スポーツによる対話と交流がつかの有無、生まれた環境に関わらず、スポーツライフの実現ができるよう学校別の事業の継続や体育連盟などの関係関体等とも連携してまいります。

文化芸術活動の振興

芸術は、 芸術、 させていく上で不可欠なもの、私たちに感動や楽しさ、心 私たちに感動や楽しさ、心の安伝統芸能、生活文化などの文化

4の社会的な財産となるよべ続した活動がより一層充 した活動 一層充実-一層充実し町民を発展できる よう支援-

文化財の保護、保存・活用

文化財は、我が国の歴史上または学文化財は、我が国の歴史上または学文化財に触れる機会を提供し、郷土への理解や誇りを育んでまいります。今年度は、本町に生息する希少生物の生態について関係機関と調査研究を行め、保護のための必要な措置について検討してまいります。の理解や誇りを育んでまいります。の理解や誇りを育んでまいります。

に残された貴重な歴史資料の保護・討してまいります。また、引き続き、 保 地存 域

> 進め、 郷

学習活

して基本的な役割とサービスにのため、生涯学習の身近れる地域社会を支えます。町民の主体的な学びや学習 まい、短いな る講演会、 普及啓発事業、 を本的な役割とサービスのほか、このため、生涯学習の身近な施設と てまいります。また、絵とンジなどの読書普及事業 の 利用者. お話会、学級文庫、 莋 マ 季節や 会いを 割れた 手 に 展示事

S 3